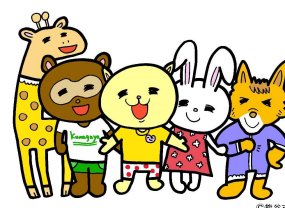


大里広域市町村圏組合

（仮称）新熊谷衛生センター整備事業 基本構想及び基本設計説明会



【本日の次第】

1. 開会
2. 管理者挨拶
3. 出席者紹介
4. 基本構想及び基本設計のご説明
5. 質疑応答
6. 閉会

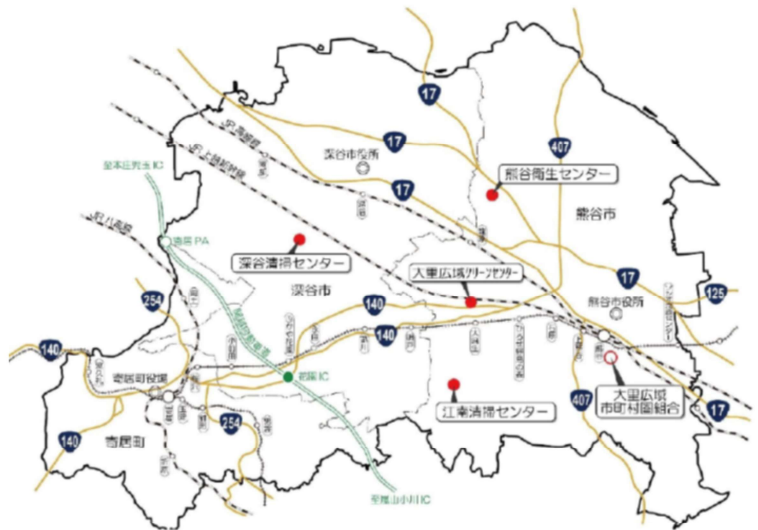


（仮称）新熊谷衛生センター整備について

（仮称）新熊谷衛生センター整備について御説明させていただきます。

現状のごみ処理体制

- 可燃ごみ処理は **4 施設体制**
 - 熊谷衛生センター第1工場
 - 熊谷衛生センター第2工場
 - 深谷清掃センター
 - 江南清掃センター
- 粗大・不燃ごみ処理は **1 施設体制**
 - 大里広域クリーンセンター
- ペットボトルは **1 施設体制**
 - 大里広域クリーンセンター



2022/8/7

(仮称) 新熊谷衛生センター整備事業基本構想及び基本設計説明会

4

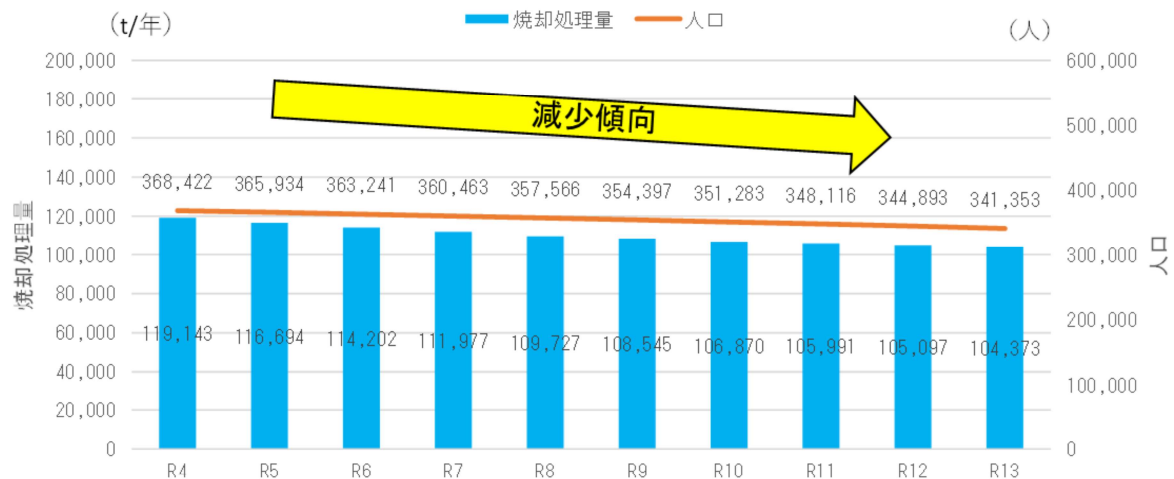
現状、当組合では熊谷市、深谷市及び寄居町の可燃ごみをご覧の4施設体制で処理を進めております。

内訳としまして、熊谷衛生センター第1工場、第2工場、深谷清掃センター及び江南清掃センターになります。

また、粗大・不燃ごみ及びペットボトルは大里広域クリーンセンターの1施設体制で処理を進めております。

組合管内における将来ごみ排出量（予測）

- 組合における焼却処理量は減少傾向である



2022/8/7

(仮称) 新熊谷衛生センター整備事業基本構想及び基本設計説明会

5

このうち可燃ごみにつきまして、令和4年度では人口約36万人に対し年間で約12万トンの処理を見込んでおります。

将来につきましては、スライドにお示しのとおり将来人口の減少に伴い減少傾向を見込んでおりますが、以前として年間で約10万トン以上の可燃ごみ処理を継続させる必要がございます。

ごみ焼却施設の稼働年数と今後の見通し①

施設の名称	写真	これまでの経過と今後
熊谷衛生センター 第1工場 (140t/日)		・ 供用開始から 42年経過 (令和4年2月時点) ・ 施設の老朽化により 処理能力が低下 ・ 平成29～30年度に長寿命化工事を実施 ・ 令和13年3月までの供用が可能
熊谷衛生センター 第2工場 (180t/日)		・ 供用開始から 32年経過 (令和4年2月時点) ・ 施設の老朽化により 処理能力が低下 ・ 平成25～26年度に長寿命化工事を実施 ・ 令和11年3月までの供用が可能

2022/8/7

(仮称) 新熊谷衛生センター整備事業基本構想及び基本設計説明会

6

このような将来の見込みに対し、ごみ焼却施設の現状といたしましては、いずれの施設も、ごみ焼却施設の一般的な耐用年数である約20年を超える供用年数に至っており、平成30年度までにいずれの施設でも長寿命化工事も実施して参りました。

まず、熊谷衛生センター第1工場におきましては、供用開始から42年が経過しており令和13年3月までの供用を見込んでおります。

また、第2工場におきましては、32年が経過しており、令和11年3月までの供用を見込んでおります。

ごみ焼却施設の稼働年数と今後の見通し②

施設の名称	写真	これまでの経過と今後
深谷清掃センター (120t/日)		・ 供用開始から 30年経過 (令和4年2月時点) ・ 施設の老朽化により 処理能力が低下 ・ 平成27～28年度に 長寿命化工事 を実施 ・ 令和11年3月まで の供用が可能
江南清掃センター (100t/日)		・ 供用開始から 42年経過 (令和4年2月時点) ・ 施設の老朽化により 処理能力が低下 ・ 平成27～28年度に 長寿命化工事 を実施 ・ 令和11年3月まで の供用が可能

2022/8/7

(仮称) 新熊谷衛生センター整備事業基本構想及び基本設計説明会

7

また、深谷清掃センターにおきましては、供用開始から30年が経過しており令和11年3月までの供用、江南清掃センターにおきましては、42年が経過しており、令和11年3月までの供用を見込んでおります。

いずれのごみ焼却施設も老朽化による処理能力の低下が進んでいることに加え、残り約10年で限界を迎える見通しであり、施設更新又は再度の長寿命化工事について検討を要する状況にあります。

その他処理施設の稼働年数と今後の見通し③

施設の名称	写真	これまでの経過と今後
大里広域 クリーンセンター (不燃物処理施設) (60t/日)		・供用開始から39年経過 (令和4年2月時点) ・施設の老朽化により処理能力が低下 ・施設の更新方法について調査・検討を行う
大里広域 クリーンセンター (ペットボトル減容化施設) (4t/5h)		・供用開始から22年経過 (令和4年2月時点) ・施設の老朽化により処理能力が低下 ・施設の更新方法について調査・検討を行う

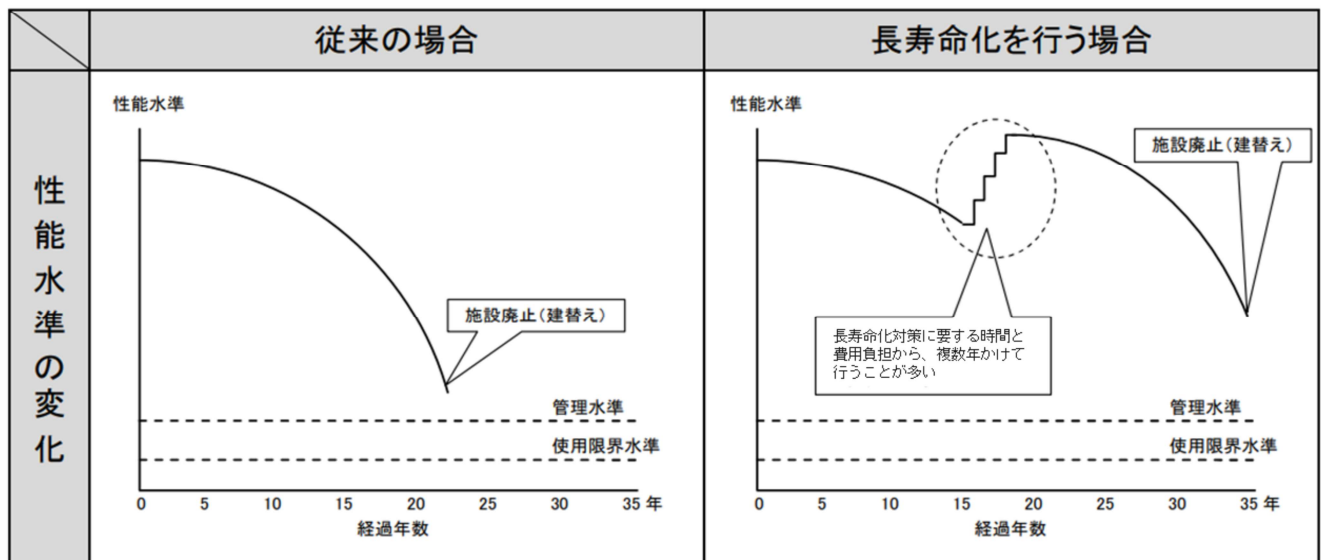
2022/8/7

(仮称) 新熊谷衛生センター整備事業基本構想及び基本設計説明会

8

更に、不燃・粗大及びペットボトルの処理を行う、大里広域クリーンセンターにおいても、不燃物処理施設は供用から39年が経過しており、施設の更新方法について調査及び検討を要する状況にあります。

参考：施設の長寿命化について



2022/8/7

(仮称) 新熊谷衛生センター整備事業基本構想及び基本設計説明会

9

ここで、先のスライドで幾度か申し上げました長寿命化工事について補足いたします。

長寿命化工事とは、通常、20年ほどで供用限界を迎えてしまうごみ処理施設をより長く供用させるため、設備の大規模修繕に加え、設備の入れ替えなどを行う工事を指します。

具体的には、スライドの左側にお示ししますとおり、従来は約20年が経過すると施設の性能水準が下がってしまい、建替えを要してきましたが、性能水準が下がり切り、使えなくなる前に大規模な補修を行うことにより性能水準（能力）の向上を図ることで最終的な供用年数を伸ばすことができます。

このような工事は、先にお示ししましたとおり、いずれのごみ焼却施設でも実施をして参りました。

しかし、スライドの右側の図にお示ししますとおり、長寿命化工事により一時性能は回復いたしますが、工事後、10～15年のうちに性能の低下が急激に進みます。

本組合の現施設については、まさにこの性能の低下が進んでいる状況にあります。

ごみ処理にかかる課題

課題 1：組合管内におけるごみ量

- 現状の施策を継続しても、**埼玉県下では高い水準**が見込まれる
- 循環型社会の形成及び更なる**減量化や資源化（プラ類の分別）**が求められる

課題 2：ごみ処理施設の老朽化と能力の低下

- ごみ焼却施設はいずれの施設も長寿命化工事を実施済みであるが寿命が限られている
- **老朽化による処理能力低下**を背景に、**現施設を建て替える時期を迎えている**
(再度、長寿命化工事を行うことも可能であるが、**費用対効果は高くない**)
- **ごみ焼却施設の集約化を行い、将来にわたり経済的な施設運営を目指す**必要もある



組合としてのごみ処理体制のあり方について学識経験者等を交え検討
ごみ処理施設整備基本構想として整理

では、ここでごみ処理にかかる課題について一度、整理をさせていただきたいと思います。

当組合が考える、ごみ処理にかかる課題はご覧の2点に集約されます。

1点目としましては、組合管内でのごみ量は、埼玉県下では高い水準にあり、循環型社会の形成に向けましては、さらなる減量化に加え近年の国からの要請も踏まえプラスチック類をはじめとする資源化が求められます。

2点目としましては、いずれのごみ焼却施設も長寿命化工事を実施済みであり、供用可能な残りの年数が約10年まで迫っております。

対応策といたしましては、再度の長寿命化工事を実施することも可能ですが、前回と同じ工事費に対し10年単位での延命化を望むことは困難であり、費用対効果の面では、現施設を建て替える方が望ましいこと。

そして、それに合わせてごみ焼却施設の集約化も行い、将来にわたり経済的な施設運営を目指すことが求められます。

以上、2点の課題を踏まえまして当組合では、令和2年度より組合としてのごみ処理体制のあり方について、学識経験者等を交えた検討組織を立ち上げ、その検討結果をごみ焼却施設基本構想として整理して参りました。